

安全データシート

作成日 2022 年 8 月 1 日
改訂日 - 年 - 月 - 日

1. 化学品等及び会社情報

| | |
|--------------|------------------|
| 化学品等の名称(製品名) | 信彩 みかん色 |
| 製品コード | SIP-07 |
| 会社名 | 株式会社 釉陶 |
| 住所 | 滋賀県甲賀市信楽町江田948-1 |
| 電話番号 | 0748-82-8150 |
| FAX番号 | 0748-82-8151 |
| メールアドレス | yuto@e-nendo.com |
| 緊急連絡電話番号 | 0748-82-8150 |
| 推奨用途及び使用上の制限 | セメント・漆喰用着色顔料 |

2. 危険有害性の要約

GHS分類

| | | |
|-----------|---------------------|----------------|
| 物理化学的危険性 | - | |
| 健康に対する有害性 | 皮膚腐食性・刺激性 | 区分2 |
| | 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | 区分1 |
| | 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) | 区分3 (気道刺激性) |
| | 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) | 区分1 (呼吸器系) |
| 環境に対する有害性 | 水生環境有害性(急性) | 分類できない |
| | 水生環境有害性(長期間) | 分類できない |

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

皮膚刺激
重篤な目の損傷
呼吸器への刺激のおそれ
長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器の障害

注意書き
安全対策

使用前にSDSを入手し、全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

保護具(マスク、手袋、眼鏡)を着用し、使用すること。

粉塵、ミストを吸入しないこと。

取扱後はよく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。

汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。

眼に入った場合、直ちに医師の診断、手当てを受けること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを受けること。

保管
廃棄

直射日光を避け、袋を密封して保管すること。

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び製品情報

単一製品・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名

無機複合顔料

内容物

| 化学名又は一般名 | 濃度または濃度範囲 | 化学式 | CAS番号 |
|----------|-----------|---|-----------|
| 酸化鉄 | < 95 | FeO | 1309-37-1 |
| ムライト | < 5 | Al ₆ O ₁₃ Si ₂ | 1302-93-8 |

官報公示整理番号
(化審法)

| 化学名又は一般名 | 官報公示整理番号 |
|----------|----------|
| 酸化鉄 | (1)-357 |

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

汚染された衣類を脱ぐこと。

皮膚を速やかに多量の水と石鹼で洗うこと。

| | |
|---------------------------|--|
| | 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。 |
| 眼に入った場合 | 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 直ちに医師に連絡すること。 |
| 飲み込んだ場合 | 口をすすぐこと。 直ちに医師に連絡すること。 |
| 急性症状及び遅発性症状の 最も重要な徴候症状 | 吸入：咳 眼：発赤 |
| 応急措置をする者の保護 | 救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。 |
| 医師に対する特別な注意事項 | 本物質により喘息の症状を示した者は、以後、本物質に 接触しないこと。ばく露の程度によっては、定期検診を勧める。 |

5. 火災時の措置

| | |
|--------------|--|
| 消火剤 | 本製品は不燃性である。周辺火災に適応した消火剤を用いる。 |
| 使用してはならない消火剤 | 棒状注水 |
| 特有の危険有害性 | 情報なし。 |
| 特有の消化方法 | 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 |
| 消火を行うものの保護 | 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣 (耐熱性)を着用すること。 |

6. 漏出時の措置

| | |
|-----------------|---|
| 人体に対する注意事項 | 関係者以外の立入りを禁止する。 |
| 保護具及び緊急措置 | 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の 項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や粉じん、ミストの 吸入を避ける。 風上に留まる。 |
| 環境に対する注意事項 | 環境中に放出してはならない。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 |
| 回収、中和 | 漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収する。 |
| 封じ込め及び浄化の方法及び機材 | 危険でなければ漏れを止める。 |
| 二次災害の防止策 | 情報なし。 |

7. 取扱及び保管上の注意

| | |
|-------|---|
| 取扱い | |
| 技術的対策 | 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、 保護具を着用する。 |

局所排気・全体換気

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気・全体換気を行なう。

安全取扱い注意事項

使用前に使用説明書を入手すること。

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

飲み込まないこと。

眼、皮膚又は衣類に付けないこと。

粉じん、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。

接触回避

「10. 安定性及び反応性」を参照。

衛生対策

使用時にミストが発生する場合は換気の良い場所又は局所排気装置が設置された場所で使用すること。

保管

安全な保管条件

直射日光を避け換気の良い涼しい所で保管すること。

容器あるいは封袋を密閉して保管すること。

混触危険物質、可燃物から離して保管する。

安全な容器包装材料

破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

設定されていない

許容濃度

日本産衛学会

第2種粉じん(吸入性粉じん 1mg/m³、総粉じん 4mg/m³)

ACGIH

TLV-TWA FeO 5mg/m³

A₁₂O₃ 10mg/m³

SiO₂ 0.05mg/m³

設備対策

空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行なうこと。

高熱工程で粉じん、ヒュームが発生するときは、空気汚染物質を許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

保護具

呼吸用保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。

眼の保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。

安全眼鏡を着用すること。撥ね飛び又は噴霧によって眼及び顔面接触が起こりうる時は、包括的な化学スプラッシュゴーグル、

皮膚及び体の保護具
衛生対策

及び顔面シールドを着用すること
保護衣、安全靴等の保護具を着用すること。
取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

| | |
|--------------|--------|
| 形状 | 固体(粉末) |
| 色 | 黄橙色 |
| 臭い | 僅かに金属臭 |
| pH | データなし |
| 融点・凝固点 | 1565°C |
| 沸点、初留点及び沸騰範囲 | データなし |
| 引火点 | 燃焼しない |

10. 安定性及び反応性

| | |
|------------|--|
| 化学的安定性・反応性 | 通常の取扱条件(常温)では安定している。 |
| 危険有害反応可能性 | (SiO ₂)強酸化剤と反応し、火災や爆発の危険をもたらす。 強酸・フッ化水素と反応する。 (FeO)次亜塩素酸カルシウムと接触すると反応する 可能性がある。 |
| 避けるべき条件 | 高温、混触危険物質との接触。 |
| 混触危険物質 | (SiO ₂)強酸・フッ化水素 (FeO)アルミニウム、酸化エチレン、塩素酸カルシウム。 |
| 危険有害な分解生成物 | 情報なし |

11. 有害性情報

| | |
|-----------------------|--|
| 急性毒性 | |
| 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 | (FeO)GHS分類: 区分2 ヒトの皮膚に発赤が生じ、中等度の刺激性がある。 |
| 眼に対する重篤な損傷性又は 眼刺激性 | (SiO ₂) GHS分類: 区分2 眼に炎症を起こす可能性がある。 (FeO)GHS分類: 区分1 ヒトの眼に腐食性がある。 |
| 発がん性 | (SiO ₂)GHS分類: 区分1A 人に発癌性がある(ECETOC JACC No. 51 (2006)) |
| 特定標的臓器毒性(単回ばく露) | (FeO)GHS分類: 区分3 ヒトで咳が見られ、息苦しさもあるとの記載(ICSC (2004))、 (IUCLID (2000)) |

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

(SiO₂) GHS分類: 区分3

肺に影響を与え、繊維症(珪肺症)を生じることがある。

(FeO)GHS分類: 区分1

良性ではあるが肺への影響が見られたことの記載あり
(ACGIH (2001)), および金属熱にかかる可能性がある。

吸引性呼吸器有害性

(SiO₂) 結晶性シリカの長期吸入により、珪肺症、肺の
繊維性変化により特徴付けられる肺繊維症障害が
起こる可能性がある。

人で発癌性を示す。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性(急性)

情報なし

水生環境有害性(長期間)

情報なし

オゾン層への有害性

情報なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、
もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には
そこに委託して処理する。廃棄物の処理を依頼する場合、
処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
当品を含む廃水は排水溝に廃棄せず、ろ過除去後に排出する。

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに
地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号

該当せず

国連品名

該当せず

容器等級

該当せず

海洋汚染物質

該当せず

特別安全対策

容器の転倒、落下、摩擦等によって損傷がないように
積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。

15. 適応法令

労働安全衛生法

特化則 特定化学物質 第2類 管理第2類
名称等を表示すべき危険有害物

(法第57条、施行令第18条別表第9)

- ・ シリカ
- ・ 酸化鉄

名称等を通知すべき危険有害物

(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)

- ・ シリカ
- ・ 酸化鉄

リスクアセスメントを実施すべき危険有害物(法第57条の3)

- ・ シリカ
- ・ 酸化鉄

粉じん障害防止規則第2条別表粉じん作業(粉じん)

- ・ シリカ

航空法

輸送禁止(使用済みのもの)

16. 引用文献その他の情報

参考文献

化学便覧 基礎編 改訂3版 日本化学会編

化学物質の危険・有害便覧 中央労働災害防協会編

その他

本記載内容は現時点で入手できた資料、情報、メーカー
所有の知見に基づいて作成していますが、含有量、物理
化学的性質、危険、有害性についてはいかなる保障を
なすものではありません。

本製品に他の化学物質を混合したり、特殊な条件で使用される
場合は、入手された各位が安全性の評価を実施し、自らの責任
において実態に応じた適切な措置を講じてお取扱いください。

本データシートは保証書ではありません。新たな情報が得られた
時点で、逐次改定発行されることがあります。